



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記

事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP <http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/index.html>

ニュースレター No.39 (2023.3)

特集1：近畿の話題（今回は兵庫、滋賀からです）

兵庫県支部結成より6年ぶりに新体制にバトンタッチ



足立 光平(前兵庫県支部長/あだち医院/加古川市)
昨年末12/18にZoomで開催された、兵庫県支部の第7回総会で、支部役員の交代が承認されました。支部長が足立より神戸大学の岡山雅信先生に、副支部長にも明石医療センターの石丸直人先生、おひさまクリニックの稲岡雄大先生と若手がつかれる新体制となりました。

総会後には、岡山新支部長からの花束もいただき、和やかな引き継ぎとなりました。(写真参照)事務局も、兵庫県医師会の事務局スタッフに兼任での負担かけておりましたが、会計と併せ、岡山先生同門の見坂

先生が引き受けていただくこととなりました。比較的多数の県下会員を抱える中でも、独自会費もとらない限られた予算での運営は大変ですが、既に近畿ブロックでの活動もリードされている若手の一層の活躍を期待するものです。

連合学会となってからの兵庫県支部の結成は、近畿の中でも最も遅く、2016年12月となったのですが、県下でのプライマリ・ケアの取組の歴史は古く、「実地医家の会」から1978年に発足した旧「プライマリ・ケア学会」に医師会員の有志が参加する中から、地区医師会としての活動に位置づけられるようになってきました。

そして、1988年6月に姫路市医師会主催で「第2回近畿地方会」が「プライマリ・ケアと地域医療」とのテーマで開催され、以来、第8回尼崎、第11回明石、第14回神戸と地元地区医師会主催で開催され、2000年に介護保険制度が導入される中、医師だけでは無い取組への発展が問われて来ました。

2003年(平成15)には、再び神戸で、医師会だけでは無い看護協会はじめ多職種団体による県プライマリ・ケア協議会結成による第17回地方会開催となり「手をつなごう、プライマリ・ケア」とのテーマで盛大に開催され、以後その県協議会としての取組が続くこととなります。

翌年第18回も西宮、第23回伊丹、続けて第24回(2010年、平成22年)には、当方が実行委員長となり、加古川での地方会を「希望としての地域医療とケア」として開催、1000名を越える参加者となりました。その年には3学会合同の「連合学会」結成となり、旧学会地方会としては最後の場となりました。

新連合学会となっても、近畿ブロック地方会の回数は引き継ぐということで、第27回もまた神戸で開催、そしてコロナ上陸前の2019年12月、第33回地方会が再び姫路で、県支部・協議会・姫路市医師会共催という形で開催され、直接参集型の最後のスタイルで1500を越える参加で開催された訳です。

以後は、コロナとの戦いに入る訳ですが、支部としての独立した発展はこれからと期待しています。

”わたし”という新たな総合診療医

～親子の幸せの好循環を。そして、プライマリ・ケアと児童精神科の架け橋へ～

柏崎 元皓 (関西家庭医療学センター/北海道家庭医療学センター 浅井診療所/長浜市)

子どもの心の発達を支えたい。そう考え、小児科に進みました。児童精神科や小児心身症科で研修をする中で「ここまで重症になる前に親子と出会って支えたい」と思うようになりました。そして、「親子とより身近な場で接する機会がある」上に、「人、家族、地域をみる」ことのできる家庭医こそが、自分の理想の医師像だと確信し、転向を決意しました。

現在は、当時の思いのまま、あらゆる外来（育児や親子のメンタルヘルスに関する相談での受診時はもちろん、ワクチン外来や感染症など他の目的の受診時でも）を、親子との出会いのチャンスと捉えて、育児支援を展開しています。

さらには、子育て世代の親子をサポートするメンバー（地域づくり協議会、社会福祉協議会、子育て支援センター、主任児童委員、家庭児童相談室、保健師、医師）の顔の見える関係構築・連携推進のため「キラ☆サポ浅井（親も家族も地域もがキラキラ笑顔になるようサポートする会）」の立ち上げに関わり、今では関係構築・連携推進を超えて、地域問題（母の孤立等）の介入にまで取り組んでいます。親と子がより幸せになり、さらにその親子の周囲や次世代へと「幸せの好循環」が生まれる未来を夢見て、皆で活動中です。

このような診療、地域活動から発展して、私には大きな（大それた）夢があります。それは「プライマリ・ケアと児童精神科の架け橋になりたい」というものです。

親や、保健師・保育士・学校の先生・スクールカウンセラーなど小児のメンタルに関わる支援職から「相談に乗ってくれる専門家がいるとありがたいが、滅多にいないで困っている」という声をよく聞きます。実際、専門的に関わる医師（児童精神科医、小児心身症科医など）は、諸外国と比べ小児人口比で 1/10 ほどと非常に少ないです。そこにこそ、プライマリ・ケア医が果たすべき役割があると確信しています。もちろん、児童精神科医ほどの専門性は持ち合わせていません。それでも、BPS モデルや家族志向型ケア、予防医療や健康増進、多職種連携（さらには地域志向ケア）の視点を既に持っている私たちにとっては、非常に親和性のある領域です。育児や小児のメンタルに関する「common な問題・悩み事」への対応は、私たちの専門領域と言っても過言ではありません。

とはいえ、育児支援や小児のメンタルの診療となると、ハードルを感じる方が少なくないのが現状です。「児童精神科医との連携（滋賀県では「滋賀子どもの心の診療ネットワーク」で児童精神科医とプライマリ・ケア医が連携し、相談や紹介・逆紹介をしています）」や、「プライマリ・ケア医のコンピテンシー+αの研鑽」により、そのハードルが下がり、より多くのプライマリ・ケア医が、より多くの親子・支援職とつながることで、大規模な「幸せの好循環」が生まれるといいな、と夢んでいます。1人でできることではありませんので、同じ志を持つ皆様と出会っていきながら、着実に歩いていきたいです。

このような special interest をライフワークに、関西家庭医療学センターの理念である「”わたし”という新たな総合診療医」として精進していきますので、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

<https://www.kansai-fm.jp/>



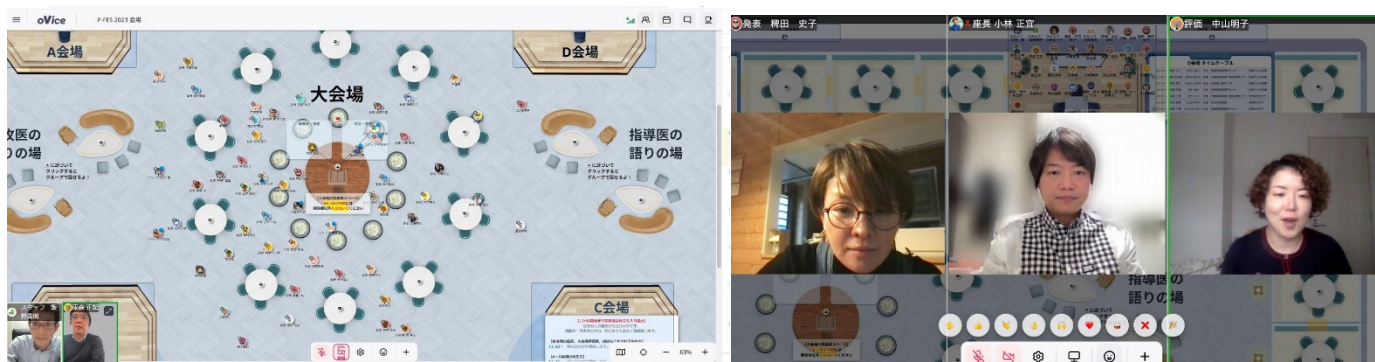
家庭医が、家庭医の特長を活かして、
もっともっと、
育児支援の分野でも力を発揮して。
他職種とも協力し合いながら、
より多くの親子の幸せを生み出せたら。

「Let's 育児支援」家庭医療専門医向けレクチャーより

報告：P-FES2023

(第15回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会) 開催！

飯野 貴明(葛西医院/大阪市)



『何かを決めるときは、目的を明確にして、実現のための手段を考える』

2023年2月26日に行われたP-FESの実行委員長を通して学んだことです。

2022年秋、実行委員の間では開催形式についての議論が紛糾していました。

現地開催に戻すか、3年連続のオンライン開催にするか。それともハイブリッド開催にするのか。

現地開催の熱量の高さが魅力だ。オンライン開催は遠方の人や小さい子供がいる人でも参加しやすい。個人の希望に応えられるのはハイブリッドではないか、などの意見がでる中で、決断の時が迫っていました。

あるメンバーの発言をきっかけに近畿ブロックの専攻医・指導医がポートフォリオ発表会を通してレベルアップを図る、という目的に立ち戻ることになりました。

現地開催のような熱量を再現しつつ、オンラインで開催できればたくさんの人が参加できる。現地開催のように、希望者が全員発表でき、指導者から生のフィードバックをもらえたら盛り上がるのではないかと。指導医も学べる企画が増えるとよいのではないかと。

運営メンバーの中で方針が一致した瞬間でした。

そして、近畿ブロックで試験導入されていたoViceという仮想空間での学会形式を採用することになりました。

その後の振り返りは、ご参加いただいた皆様からの感想に代えさせていただきます。

「初めてのoVice操作で、はじめはうまく入れなかったのですが、その後は問題なく入れました」

「オンラインでも熱量のある運営で、素晴らしい取り組みでした！」

「関西を離れてからも参加でき、お世話になった方々とも会えました」

「座長・評価者の負担が大きかったです」

「多職種の発表がもっとあるとよいです」

みなさまからいただいた意見は来年度に引き継がせていただきます。

さて、私は関東で専門医を取得後、2年前から近畿ブロックに所属しています。

今回の開催にあたり、近畿ブロックでこれまで尽力されてきた先輩方の功績に触れる機会が何度もありました。過去から現在、そして未来へつながっていく。今回のP-FESがこれからのプライマリ・ケア領域の発展に寄与するきっかけになったのならこの上ない喜びです。

最後になりましたが、会の運営にあたり、ご参加・ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございました。

特集2：近畿地方会のバトンは、奈良からオンラインへ

吉本 清巳 (第35回近畿地方会大会長/奈良県支部長)



2022年11月20日、「新時代へのパラダイムシフト ～わくわくする地域へ～」をテーマに日本プライマリ・ケア連合学会 第35回近畿地方会を、現地会場とLive配信のハイブリッドで開催しました。

特別シンポジウムでは、「総合診療医とは、その魅力と価値、将来像について」と題して総合診療専門医が誕生してのこれからの新時代に向けて、指導医、専門医、専攻医が熱く語り合いました。

特別講演では、「幻の御守搜索大事件—神頼みを通して考える仏教と医療のプライマリ・ケア」と題して、興福寺の僧侶 ザイレ暁映師に、一生に一度しか使えない最強の御守りの事例を題材に、心身一如やコミュニケーションの重要性、宗教と医療の共通性や相違点についてご講演いただきました。

教育講演では、「病の治療における近年の課題と医師-患者関係の重要性」と題して石井均先生(奈良県立医科大学・患者関係学講座教授)に、共感と思いやり、コミュニケーションの重要性、「折れない心の作り方～アナウンサーの視点、心理士の視点～」と題して関根友実先生(臨床心理士、アナウンサー)に、ご自身の経験から心身相関の実感、レジリエンスや人との関わりの重要性などをご講演いただきました。

今回は、実行委員に専攻医が多く参加し企画を運営しました。3つのシンポジウム「魅力がいっぱい、コミュニティナーシング!」「医薬連携『互いに聞きたい10のこと』」「研究をいつやるか?どう支えるか?～研究継続の極意とは?～」では、いずれも多くの多職種のシンポジストの方にご参加いただき、充実した内容になりました。

また、専攻医の先生発案の、多職種カンファレンスのブラッシュアップを目的としたワークショップ「おうちに帰ろう ～快適な療養のための4STEP～」では、ZOOMを駆使して、現地とオンラインと同時に多職種でグループワークを行い、さながら模擬多職種カンファレンスを行うことができました。

一般演題でも、数多くの演題発表誠にありがとうございました。こちら、現地からもオンラインからもご参加いただきました。

今回は10月20日からの教育講演や特別対談の事前オンデマンド配信、そして当日の様子も2023年1月31日まで配信させていただきました。フォトコンテストも開催させていただきました。

演題登録や参加登録、抄録作成、オンデマンド配信、メール配信、当日の受付・運営など、自分たちでさせていただいた部分が多くあり、行き届かなかったこともあったかと存じますが、どうかご了承ください。ランチョンセミナーや広告も制限がある中、新しい形での開催に挑戦し、新型コロナ第8波の中、無事にハイブリッド開催をさせていただくことができました。

今回の開催にあたり、多くの方にご寄付をいただき誠にありがとうございました。皆様のご協力を厚く御礼申し上げます。



第36回近畿地方会のお誘い

大島 民旗 (大阪家庭医療・総合診療センター・相川診療所/吹田市)

近畿ブロックの皆様、お元気でしょうか?次回近畿地方会の大会長を務めることになりました、大島です。日本プライマリ・ケア連合学会の近畿地方会は毎年秋に行われていますが、一昨年はコロナのためオンライン+オンデマンド、昨年は3年ぶりに現地集合とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。実は現地開催の地方会は現地となる各府県支部の業務負担が大きく、収支も厳しくなっています。コロナの感染状況も恐らく感染者が増えたり減っ

たりを繰り返すであろうことから、近畿ブロック理事監事の会で、2年に1回はオンラインのみで、あまり気合を入れない、予算的には極力抑えて、なおかつ専攻医や専門医・認定医指導医の皆様にとって有意義なものにしようと話し合いました。その結果、専攻医の学会発表の機会、専攻医の Off-the-Job トレーニングの機会を提供することを最大の目的に開催します。

したがって、第36回近畿地方会は、2023年11月26日(日)に、大会長講演や有名講師を招いての講演は予定せず、口演発表は質疑時間や同一テーマのセッションでの意見交換時間をしっかりととり、専攻医にニーズが高い研究、教育、マネジメントのセッションも組み入れた形で考えています。それに加えてコロナ移行のこの3年間、ゆっくり交流できる機会が少なかったため、そうした機会にもなればと思います。

大会長に加え実行委員長に川島篤志先生、副実行委員長に若手のホープ稲岡雄太先生、実行委員会は理事監事の会メンバーに協力委員も含めて、少数精鋭メンバーで内容を検討中です！

先日開催された P-FES に参加しましたが、実行委員長の飯野先生はじめ、運営スタッフのメンバーは近畿ブロックの中堅～若手の方々に、専攻医の皆さんのポートフォリオも大変充実したものでした。近畿ブロックのプライマリ・ケアを担う人たちのパワーはすごいものになっていると、感激しました。雰囲気も oVice というバーチャル会議室を使用して、「あ、あの人がいる」と思ったら声かけて、数名での会話がその場でできる仕組みは非常に面白いなと思いました。もちろん「そんなの使いこなすの無理」という方にも別の形で安心して参加できるように工夫したいと思います。11月26日はぜひ専攻医の先生は「学会発表」の機会として、そうでない医師・他のメディカル・ケアスタッフの方にも積極的に演題発表と交流の機会として、近畿地方会を利用してほしいと思います。

代議員選挙イヤー (year) について

2023年は、代議員選挙があります。近畿ブロックからも学会活動にコミットメントしていただける代議員の方がたくさんいてくだされば、近畿ブロックの活動は、ますます盛んになっていくと思われれます。代議員選挙に立候補される会員の方が増えることを祈りまして、現在代議員の先生方から、代議員の魅力について語ってもらうコーナーを設けています。

ダイギイン、それっておいしいの??

官澤 洋平(明石医療センター 総合内科/明石市)

学会との関係は人それぞれだと思いますが、大なり小なりキャリアや普段の診療にも影響する組織でしょう。その学会を運営しているのが理事です。代議員になるとその理事を選ぶ権利が得られます。それだけではありませんが、重要な立場であることがわかりますね。

しかし、「ダイギイン」その響きだけでも余計な仕事が増えてしんどそう！と引いてしまう方が多いのではないのでしょうか。普通の感覚です。つまり何も意識しなければ、大事な運営(理事)を選ぶ立場が意図せずにバリバリと働けるメンバーに偏ってしまうのです。しかし、学会運営なんて大変！って思うような方々の意見は学会の運営を支える大切な一つの意見となるのです。主には年に1~2回(最近ハイブリッド開催もされています)の定時・臨時総会への参加がメインになります。

私もダイギイン活動に携わるようになり、様々な人たちとの関わりが増え、学会活動の見え方が広がりました。是非、1度手を挙げてみられてはいかがでしょうか！

ダイバシティ推進委員会の記事が参考になります。ご興味湧いたという方は、是非、クリックしてみてください。

<https://www.primarycare->

wlb.com/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E5%B1%A5%E6%AD%B4/%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%AA%8C%E6%8E%B2%E8%BC%89/

その他

●近畿ブロックのレジェンドたちのライフヒストリー&感動秘話

- # 1 石丸裕康 先生
- # 2 木戸友幸 先生
- # 3 中山（畔田）明子 先生
- # 4 雨森正記 先生
- # 5 鈴木富雄 先生
- # 6 松井善典 先生
- # 7 竹中裕昭 先生
- # 8 三澤美和 先生
- # 9 専門研修をはじめたばかりの3人の専攻医



<https://podcasts.apple.com/gb/podcast/legend-of-gp-in-kpca/id1583573369>

をゲストに迎え、順調にポッドキャスト収録が進んでいます。
ぜひ一度お聞きください。

●近畿ブロックの研修ブラッシュアッププロジェクト ～up to the 3rd power～

2023年度から、近畿ブロック全体で専攻医の研修をサポートする取り組み

「UP to The 3rd Power (UT3P)」が本格始動します。

UT3Pって何？という方はこちらをクリック↓↓

[https://docs.google.com/presentation/d/1_l-](https://docs.google.com/presentation/d/1_l-XuE1eDokwpOhwPIG74TnN9ZeDuiwNEtaC3KZgZM/edit#slide=id.g20f61069de3_0_32)

[XuE1eDokwpOhwPIG74TnN9ZeDuiwNEtaC3KZgZM/edit#slide=id.g20f61069de3_0_32](https://docs.google.com/presentation/d/1_l-XuE1eDokwpOhwPIG74TnN9ZeDuiwNEtaC3KZgZM/edit#slide=id.g20f61069de3_0_32)

そして、いよいよ近畿ブロック専攻医のための研修パスポート「KONPass」も Peatix で販売になります。

これは、春のオリエンテーション、秋のブラッシュアップセミナー、冬のポートフォリオ発表会、といった3大イベントへの参加に加えて、日々の外来振り返りや、オンライン指導医とメンタリングも、バーチャル医局を用いて、回数制限なくできてしまう、近畿専攻医だけの特別なパスポートです。(年会費 3000 円)

ぜひ専攻医の皆様はこちらをフォローして、チケットの購入をお願いします。

<https://ut3p2023.peatix.com/view>

そして、指導医の皆様も、ぜひフォローをお願いいたします。(指導医の皆様はチケットを購入しないでくださいね。)

ニュースレター編集委員大募集！！

朝倉 健太郎 (大福診療所/桜井市)

近畿ブロックニュースレター編集部では、近畿ブロック支部や各府県支部の取り組み、会員のみなさまの近況などを中心に編集作業に取り組んできました。

3ヶ月毎、年4回の発行を行っており、本誌2023年春号は39号にあたります。

引き続き、様々な立場、役割を担っている会員のみなさまの活動を幅広く取り上げていくことができると考えております。

ニュースレターの編集にご興味のある方、一緒に面白い記事を作成してみようかなと思った方は、編集部

kentaroasakura@gmail.com 朝倉までご一報下さい..

[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之